

(哺乳類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響										分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド							備考			
								生物多様性への影響					産業影響			人への影響			河川・水路(河川敷含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地		森林	市街地	
								競争による遺伝的攪乱	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害												神戸・阪神
8	ネコ	イタチ	チヨウセンイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	Z	○		○	○	○	○																○	ニホンイタチとの種判別を伴った県内での正確な分布調査はないが、西日本一帯に生息していると考えられている。	
9	ネコ	ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	Z	△		○		○	○																○	神戸市、南但馬地域で生息情報がある。神戸市では実際に捕獲されている。	
10	ネコ	ネコ	ノネコ	<i>Felis catus</i>	Z	○		○		○																	○	捕食行為などによる生態系へのインパクトが大きい。	
11	ネズミ	リス	タイワンリス	<i>Callosciurus erythraeus thaiwanensis</i>	Y	△	特定	○		○	○																○	○	神奈川県、静岡県、岐阜県、大阪府、和歌山県、長崎県などで定着していると言われている。在来リス類との競合などが懸念される。
12	ネズミ	リス	プレーリードッグ類	<i>Cynomys sp.</i>	Y					○	○																○	○	過去に情報が寄せられた時期があったが生息確認には至っていない。
13	ネコ	イタチ	フェレット	<i>Mustela furo</i>	Y		要注意	○		○	○																○	○	大量にペットとして利用されており、定着すれば捕食行為などにより在来生物相に影響を与える可能性がある。

兵庫県生物多样性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(鳥類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響											分布 △：古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド										備考						
								生物多样性への影響	産業影響	人への影響	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林		市街地	農家への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部		播磨西部	但馬	丹波	淡路		
1	ハト	ハト	ドバト	<i>Columba livia</i>	Z	○		△	△	○																										山地を除く県内全域に生息し、特に人口集中地に多い。農業被害のほか建築被害(糞害)が大きい。
2	スズメ	チメドリ	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>	Z	○	特定	△	△																									飼い鳥として古くから輸入されている外来鳥類。県内では、1980年に裏六甲で繁殖が確認されるとともに、1995年以降は表六甲でも確認され、個体数が劇的に増えている。また、最近では六甲山系以外に、繁殖期である2004年7月に氷ノ山山頂近くで生息が確認された。影響の実態は不明であるが、標高の高い落葉広葉樹林のササ藪に営巣するため、類似環境に営巣するウグイスなど、在来種への影響が危惧される。		
3	カモ	カモ	アヒル	<i>Anas platyrhynchos</i> <i>var. domestica</i>	Y	△			○	△																								公園の池などに幅広く生息している。主に飼育下で生息するが、中には野生化し、池や河川のそばなど淡水域で生息している。マガモから人為的に作り出された家禽でマガモとの交雑の可能性がある。		
4	カモ	カモ	アイガモ	<i>Anas platyrhynchos</i> <i>x A. p. var. domestica</i>	Y	△			○	△																								野生のマガモとそれを家禽化したアヒルとの交雑種である。アイガモ農法で使用されたり、愛玩用として飼育されるが、逸出したアイガモがマガモと交雑する可能性がある。		
5	スズメ	ムクドリ	ハッカチョウ	<i>Acridotheres cristatellus</i>	Y	△		△	△																									飼い鳥として県内に持ち込まれたものが逃げ出し、野生化したと考えられている。県内では、1982年に姫路市で初めて確認され、次第に加古川、明石と東にその生息範囲を広げ、神戸市、西宮市、伊丹市でも出現情報がある。また、スポット的に豊岡市でも確認されている。生息実態や影響の詳細は不明であるが、今後の動向に注意する必要がある。		
6	スズメ	カラス	カササギ	<i>Pica pica</i>	Y	△		△	△																								日本では佐賀平野とその周辺でのみ生息する。県内では、明石で繁殖していた時期がある。生息実態や影響の詳細は不明であるが、今後の動向に注意する必要がある。			

兵庫県生物多样性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(爬虫類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着 ○△: 定着の 怖れが 高いもの	国 指定 状況	本県での影響												分布 △:古い記録、 不確実な情報、 可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド	備考									
								生物多様性 への影響	産業影響	人への 影響	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部				播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸
1	カメ	カミツキガメ	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>	Z	△	特定	○																							捕食性が強く、定着した場合、水生生態系の上位を占める。繁殖力も比較的強く、一度高密度になってしまうと分散も早く、完全除去が難しくなる。
2	カメ	カミツキガメ	ワニガメ	<i>Macrolemys temminckii</i>	Z		要注意	○																							性質等はカミツキガメと同様であるが、繁殖力がはるかに弱く、繁殖集団としての定着の危険性は低い。
3	カメ	ヌマガメ	アカミミガメ(ミシシッピアカミミガメ含む)	<i>Trachemys scripta elegans</i>	Z	○	要注意	○		○																					雑食性で動物質から植物質まで幅広く利用する点、繁殖力が旺盛で容易に高密度に達する点などから、生態系への影響、特に生態的に競合することが予想されるニホンイシガメへの影響が懸念される。
4	カメ	スッポン	チュウゴクスッポン	<i>Pelodiscus sinensis sinensis</i>	Z	△	要注意	○	○		△		△																		日本のスッポンは従来、すべて外来性とされていたが、近年、集団遺伝学的、古生物学的研究から在来固有亜種が存在が確認された。大陸産基亜種の定着は在来亜種の遺伝的攪乱につながると懸念される。
5	カメ	イシガメ	クサガメ	<i>Chinemys reevesii</i>	Y	○		○	○																						長く在来種と考えられてきたが、現在、日本に見られる集団がすべて外来である可能性が高い。遺伝浸透や競合を通じた日本の固有種ニホンイシガメへの影響が懸念される。

兵庫県生物多样性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(両生類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響										分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド							備考		
								生物多样性への影響			産業影響			人への影響					河川・水路(河川敷含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地		森林	市街地
								生態系基盤の改変	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	寄生物による遺伝的攪乱	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害											
1	有尾	オオサンショウウオ	チュウゴクオオサンショウウオ	<i>Andrias davidianus</i>	Z	○	△	○	○	○																	中国産のオオサンショウウオで、食用として輸入されたものが、京都鴨川で野生化した。在来種への遺伝浸透の可能性も指摘されている。	
2	無尾	アカガエル	ウシガエル	<i>Rana catesbeiana</i>	Z	○	特定	○	○	○																捕食性が高く、潜在的餌動物への影響が大きい。カエルツボカビやラナウイルスの保菌者としても要注意である。ただし定着してから長期を経ているため、すでに在来生態系の1要素となっていることに留意した対応が必要である。		

兵庫県 の 生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト) (2010)

(魚類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響											分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド						備考						
								生物多様性への影響	産業影響					人への影響						河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林		市街地					
					Z Y 警戒種	○ △ : 定着の怖れが高いもの ○ : 定着	特定(特定外来生物) 要注意(要注意外来生物)	競合、捕食、駆逐など 交雑による遺伝的攪乱	在来生物への病原菌、 寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林	市街地	
1	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>	Z	○	特定	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○							捕食性が高く、在来魚類や水生昆虫などへの影響が大きい。繁殖力が旺盛で容易に高密度に達するため、一度侵入すると駆除が困難である。	
2	スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス	<i>Micropterus salmoides</i>	Z	○	特定	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○							捕食性が高く、在来魚類や水生昆虫などへの影響が大きい。繁殖力が旺盛で容易に高密度に達するため、一度侵入すると駆除が困難である。	
3	コイ	コイ	ソウギョ	<i>Gtenopharyngodon idellus</i>	Y		要注意	○	○	○			○					○				○	○							現状は不明であるが、コイと同様に河床の小動物、水際を含む水棲植物を食い荒らす。現生息河川での繁殖はしないと思われるが、寿命が長く大型なので、1個体当たりの影響は大きいと考えられる。		
4	コイ	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	Y			○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○							各地の水系に飼育品種を含め放流されている。小水系、あるいは大量に放流された場合、底生小動物や水草を食いつくす。大半の時間、河床に口を差し入れ、砂泥を動かすなど、河床の不安定化をもたらす。川の美化ということで、放流や保護活動が盛んであるが、在来魚の多い川での大量放流は避けたい。	
5	コイ	コイ	タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	Y	○	要注意	○	○	○							○	○	○	○	○	○	○	○						場所によっては高密度に棲息するが、産卵基盤のドブガイ類の減少などで少なくなっている。在来のニッポンバラタナゴと容易に交雑するが、県内では放流と見られるニッポンバラタナゴが散在するものの、自生のものは、すでに絶滅しているため、その点での問題はない。ただし、他の在来種と減少する産卵基盤となるイシガイ類を競合することで、他種への影響が大と思われる。		

(昆虫類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の状況	本県での影響											分布 △:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド										備考				
								生物多様性への影響			産業影響				人への影響					河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林	市街地								
6	コウチュウ	オサゾウムシ	ヤシオオオサゾウムシ	<i>Rhynchophorus ferrugineus</i>	Y	○	特定(特定外来生物)	競争、捕食、駆逐など	交雑による遺伝的攪乱	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	生態系基盤の改变	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草地	森林	市街地	○	淡路島に侵入した情報があり、植栽のフェニックスを食害する被害がある。
7	ハチ	アリ	ヒアリ	<i>Solenopsis invicta</i>	Y	△	特定				○	○						○														○	○	日本での定着の記録はないが、亜熱帯から温帯性のアリで、侵入・定着の可能性ある。物資の移動とともに侵入し、在来アリとの競争、小型節足動物の捕食など生態系に大きな影響を与える可能性がある。また、人間や家畜への刺咬被害が激しく、要注意である。
8	チョウ	ゴマダラチョウ	アカボシゴマダラ	<i>Hestina assimilis</i>	Y	△	要注意																									○	○	愛好者による意図的な放蝶が原因で侵入・定着する可能性がある。在来種ゴマダラチョウと食樹をめぐって競争する。また、オオムラサキとも競争の可能性がある。
9	チョウ	イラガ	ヒロヘリアオイラガ	<i>Parasa lepida</i>	Y	○					○								○	○	○	○	○	○								○	○	広食性で、街路樹や庭木など多くの樹種を食害する。1980年代に兵庫県にも侵入・定着し、既になじんでしまった害虫であるが、食害以外にも幼虫による人への刺傷被害など人間生活に影響を及ぼすため、今後の動向を注意する必要がある。
10	チョウ	アゲハチョウ	ホソオチョウ(ホソオアゲハ)	<i>Sericinus montela</i>	Y	△	要注意																	○								○	○	愛好者による意図的な放蝶が原因で侵入・定着する可能性がある。在来種ジャコウアゲハと食草が重複するため、競争するおそれがある。都市近郊の河川敷に発生例が多い。放蝶を慎むことが重要である。

兵庫県における生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(クモ類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着状況	国指定	本県での影響										分布				影響を及ぼすフィールド	備考										
								生物多様性への影響	産業影響			人への影響			△:古い記録、不確実な情報、可能性高いもの	河川・水路(河川を含む)	水田・畑地	湿地	海浜・沿岸	草	森林			市街地									
					Z・Y・・・・警戒種	○△:定着の怖れが高いもの	特定(特定外来生物)	競争、捕食、駆逐など	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川を含む)	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸	草	森林	市街地	
1	クモ	ヒメグモ	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>	Z	○	特定									○	○	○															側溝内部、フェンス基部、自動販売機の裏など、穴や隙間に網を張って生息する。コンテナや建築資材の運搬などにも分布が拡大し、個体数の増加とともに咬傷被害も増加する傾向にある。強い神経毒をもち、咬まれると痛みや熱感などの症状が生じ、重症化することもある。特に幼児や高齢者では注意が必要である。踏みつぶしやピレスロイド系殺虫剤で駆除できるが、卵のうは除去しなければならない。
2	クモ	ウシオグモ	クロガケジグモ	<i>Badumna insignis</i>	Y	○										○	○	○	○													1969年に大阪府で発見され、分布を広げている。建造物の周辺にポロ網を張って生息する。在来生物への影響は不明である。わが国では被害はないが、原産地では皮膚壊死を起こす咬傷例もある。	
3	クモ	ヒメグモ	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>	Y	△	特定									○																強い神経毒をもち、咬まれると激しい症状をともなう可能性がある。貿易港で物資とともに侵入する可能性がある。	

兵庫県における生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(甲殻類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着	国の指定状況	本県での影響											分布							影響を及ぼすフィールド	備考
								生物多様性への影響			産業影響				人への影響				分布								
								生態系基盤の改変	在来生物への病原菌、寄生虫などの媒介	交雑による遺伝的攪乱	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)		
1	無柄	フジツボ	アメリカフジツボ	<i>Balanus ebruneus</i>	Z	○		○	○																		内湾岩礁帯の潮間帯表面を被覆し、他種の付着や固着を阻害する。養殖カキへの固着、垂下漁具の汚損などの被害もある。
2	無柄	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Balanus improvisus</i>	Y	○		○																			内湾岩礁帯の潮間帯表面を被覆し、他種の付着や固着を阻害する。養殖カキへの固着、垂下漁具の汚損などの被害もある。
3	十脚	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	Y	○	要注意		○																		生息数は水路の改修や水田の乾田化などでかなり減少しているが、多産地域も未だある。水生植物の摂食というインパクトはかなりのものであることが指摘されている。
4	十脚	ヌマエビ	カワリスヌマエビ属の数種(数亜種)	<i>Neocaridina spp.</i>	Y	○		○	○																		複数種が釣り餌用に冬季を中心に大量に輸入されている。県下では、瀬戸内海流入河川で、在来のミナミヌマエビでない個体が見受けられる。交雑による遺伝子汚染、駆逐などが急激に進む恐れがある。
5	十脚	ワタリガニ	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>	Y	○	要注意	○																			京阪神地区の沿岸で優先的に棲息する。潮間帯下部の生物との競合が指摘されている。

兵庫県生物多样性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(貝類)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着 状況	国指定 特定(特定外来生物) 要注意(要注意外来生物)	本県での影響										分布 △:古い記録、 不確実な情報、 可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド	備考													
								生物多様性 への影響	産業影響	人への影響	競合、捕食、駆逐など	在来生物への病原菌、 寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害				景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	池沼・湖沼	河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	湿地
1	ニナ	リンゴガイ	スクミリンゴガイ	<i>Pmacea canaliculata</i>	Z	○	要注意	○	○	○	○	○																				○	水稲苗の食害、卵による護岸壁の汚損などの被害がある。
2	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>	Z	○	要注意			○		○	○			○	○	○														○	年による発生ムラがあるが、養殖カキに付着し、成長阻害や作業困難を生じさせている。垂下漁具などに著しい量の付着が見られるが、近年はミドリイガイのほうが顕著である。ただし、数年にわたって生育するので、個体サイズの被覆は大きい。近年はミドリイガイの繁殖や被害が目立ち、本種の生息量は以前ほどでなくなっているが、楽観視できない。
3	イガイ	イガイ	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>	Z	○	要注意			○		○	○			○	○	○														○	年による発生ムラがあるが、2001年以降、養殖カキに著しく付着し、成長阻害や作業困難を生じさせている。発電所や工場の取水管内に著しい量の付着が見られる。県内では越年個体は未確認である。
4	ハマグリ	シジミ	台湾シジミ種群	<i>Corbicula fluminea</i>	Z	○	要注意		○	○			○	○			○	○	○	○	○	○	○	○								○	在来のマシジミとは本来、同一の種類と考えられるので、区別が難しい。3倍体であり交配による真の遺伝子汚染はないが、台湾シジミの精子がマシジミにかかれば、台湾シジミとなる。水道設備で大量発生することがある。これまで、シジミの生息が無かった場所で急激に大量に発生することから、水質がよくなったなどの誤解を招くこともしばしばある。
5	ニナ	カリバガサガイ	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>	Y	○		○		○		○				○	○	○														○	岩礁内湾域では転石、巻貝類にかなりの量が被覆している。アカニシやサザエ、ミガキボラなどに付着し奇形などの成長障害を起こしている。

兵庫県に生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト(ブラックリスト)(2010)

(その他無脊椎動物)

No	目名	科名	和名	学名	ランク	定着 ○△: 定着の 怖れが 高いもの	国指定 の状況 ○: 要注 意(要注 意外来 生物) △: 特定 (特定 外来生 物) ○: 注意 (注意 外来生 物)	本県での影響														分布 △: 古い記 録、不 確実な 情報、 可能性 高いもの	影響を及ぼすフィールド						備考					
								生物多様性 への影響							産業影響			人への影響					河川・水路 (河川敷 含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩 性湿地	海浜・沿 岸		草地	森林	市街地		
								生態系基盤の 変化	在来生物への 病原菌、 寄生虫などの 媒介	交雑による遠 伝的攪乱	競合、捕食、 駆逐など	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障 害	景観への影響	人への健康被害	人への直接被害	神戸・阪神	播磨東部	播磨西部												但馬	丹波
1	マメボヤ	ユウレイボヤ	カタユウレイボヤ	<i>Ciona intestinalis</i>	Y	○																												港湾、沿岸の水中人工物や養殖貝類などに付着し、場所によっては密度が高い。
2	ケヤリムシ	カンザシゴカイ	カサネカンザシ	<i>Hydroides elegans</i>	Y	○	要注 意																											海水の汚水ろ過をするという点では優れているが、内湾岩礁帯の潮間帯表面を被覆し、他種の付着や固着を阻害する。

(維管束植物) 一対策を優先して行うことを推奨するもの

No	科名	和名	学名	ランク	定着	国指定	本県での影響										分布 △:古い記録、 不確実な情報、 可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド					備考												
							生物多様性 への影響			産業影響				人への影響				河川・水路 (河川敷含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地		海浜・沿岸	草地	森林	市街地								
				Z	Y	△	特定(特定外来生物)	競合、捕食、駆逐など	交雑による遺伝的攪乱	在来生物への病原菌、 寄生虫などの媒介	生態系基盤の改変	農業への影響	林業への影響	漁業への影響	利水・治水障害	景観への影響	人への健康被害						人への直接被害					神戸・阪神	播磨東部	播磨西部	但馬	丹波	淡路	淡路	池沼・湖沼
8	キク	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i> L.	Z	○	○	要注意	○		○						○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									河川敷や法面で優占群落を形成し、河原の固有種を含む在来種との競合や駆逐のおそれがある。花粉症のアレルゲンとして、人への健康被害もある。
9	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i> L.	Z	○	○	特定	○		○								○	○	○	○	○		○	○									長野県や岐阜県では、河川敷固有の植物に大きな影響を与えていることが確認されている。強靱な性質の種で、法面で優占群落を形成し、在来生態系への影響が大きい。	
10	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i> (D. Don) DC.	Z	○	○	特定	○										○						○	○	○								水路や湿地の在来種を駆逐し、生態系に深刻な影響を及ぼす種として知られており、警戒が必要である。武庫川で侵入が確認されている。	
11	キク	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i> Poir.	Z	○	○	特定	○			○	○						○	○	○				○	○									淡路島など県南部の海岸や道路法面、内陸造成地等を中心に侵入している。分布を拡大しており、在来種と競合するおそれがある。	
12	トチカガミ	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i> Planch.	Z	○	○	要注意	○						○				○	○	○	○	○	○	○	○									クロモ等の在来の水生植物と競合し駆逐している。既に広範囲に蔓延しているが、大量に利用されているため規制による大量遺棄のおそれもある。	
13	サトイモ	ボタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i> L. var. <i>cuneata</i> Engler	Z	○	○	特定	○						○				○	○	○				○	○									浮遊性の水草で、水面を覆い尽くして光を遮ることで、他の植物の光合成を阻害することが指摘されている。トチカガミ群落が消滅寸前に追込まれるなど、在来植物の生育を脅かしていることが指摘されている。	
14	ミズアオイ	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i> (Mart.) Solms-Laub.	Z	○	○	要注意	○			○	○						○	○	○				○	○	○								既に各地の湖沼等で野生化している浮遊性の水草で、水面を覆い尽くし光を遮ることで在来の水生植物の生存を脅かすとともに、アレロパシー作用等を通じて水生生物全体へ影響するおそれがある。大量に利用されているため規制による大量遺棄のおそれがある。	
15	イネ	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i> (Schrad.) Nees	Z	○	○	要注意	○			○							○	○	○	○	○	○	○	○	○								耐暑性と耐旱性に優れ、土壌侵食防止力が強いいため、法面緑化などに全国で広く用いられている。河川低水敷に優占し砂を堆積することで、在来植物との競合・駆逐や、生育環境の改変が生じている場合がある。	

(維管束植物)ー緑化利用により影響の拡大が懸念されるもの

No	科名	和名	学名	ランク	定着	国指定	本県での影響										分布 △:古い記録、 不確実な情報、 可能性高いもの	影響を及ぼすフィールド						備考			
							生物多様性への影響				産業影響				人への影響			河川・水路(河川敷含む)	池沼・湖沼	水田・畑地	湿地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸		草地	森林	市街地
16	タデ	イタドリ (県外産・国外産)	<i>Reynoutria japonica</i>	Z	○		○																			法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競合や遺伝的攪乱が危惧される。	
17	マメ	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i> L.	Z	○	要注意	○						○		○	○	○	○	○	○				○	○	○	河川敷などに侵入・定着し群落を形成し、在来植生に影響を与えている。自然性の高い地域への侵入事例も知られていることから、そうした地域での法面緑化には注意が必要である。河川堤防法面、道路法面に導入されたものが分布拡大している。
18	マメ	コマツナギ (県外産・国外産)	<i>Indigofera</i> sp.	Z	○		○																		○	○	法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競合や遺伝的攪乱が危惧される。
19	マメ	マルバハギ (県外産・国外産)	<i>Lespedeza cyrtobotrya</i>	Z			○																		○	○	法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競合や遺伝的攪乱が危惧される。
20	マメ	カラメドハギ (県外産・国外産)	<i>Lespedeza juncea</i> Pers.	Z			○																		○	○	法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競合や遺伝的攪乱が危惧される。
21	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i> Ait.	Z	○	要注意	○		○					○		○	○	○	○	○				○	○	移植が容易で生長が速く、大気汚染に強いことなどから、街路樹や公園樹等として広く利用されている。河川敷に優占群落を形成したり、森林で定着し、低木層を優占することもあり、種子供給源が県下に多数あるため、注意が必要。道路法面等にも侵入している。	
22	カバノキ	ヤマハンノキ (県外産・国外産)	<i>Alnus hirsuta</i>	Z			○																		○		法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競合や遺伝的攪乱が危惧される。
23	カバノキ	ヒメヤシャブシ (県外産・国外産)	<i>Alnus pendula</i>	Z			○							○											○		法面緑化に使用される外国産(兵庫県外産)の在来種で、本来自生している在来種との競合や遺伝的攪乱が危惧される。

(維管束植物)ー緑化利用により影響の拡大が懸念されるもの

No	科名	和名	学名	ランク	定着 ○△ :定着の 佈れが高いもの	国指定 の 状況 特定 (要注 意(特 定外 来生 物) 要注 意(要 注 意外 来生 物))	本県での影響										分布 △:古い記録、 不確実な情報、 可能性高いもの				影響を及ぼすフィールド	備考
							生物多様性 への影響				産業影響			人 への 影響			河川・水路(河川敷含む)	水田・畑地	干潟・塩性湿地	海浜・沿岸 草地		
Z	Y	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・					・	・
33	スイレン	セイヨウスイレン(スイレン園芸品種含む)	<i>Nymphaea hybrida</i> Hort.	Y	○		○														公園や人家に近いため池などに広く分布している。水面を覆い尽くし、在来の水生植物を駆逐するおそれがある。	
34	メギ	ヒイラギナンテン	<i>Mahonia japonica</i>	Y	○		○													○	森林内に侵入し、在来の下層植生に影響を与える可能性がある。	
35	アオイ	ケナフ	<i>Hibiscus cannabinus</i> L.	Y			○													○	成長が速く、収穫できる繊維も多いため、木材パルプの代替資源として注目を浴びるようになった。強い繁殖力を持つことなどの点で、セイタカアワダチソウなどのように一度野外に定着すると駆除が困難になるおそれもある。人為的な播き出しは防止すべきである。	
36	バラ	ピラカンサ類(タチバナモドキ、トキワサンザシ、カザンデマリなど)	<i>Pyracantha</i> spp.	Y	○		○													○	河川敷で林縁部に定着し、一部県外地域で優占群落を形成することが知られている。植栽が多く逸出の頻度が高いため注意を要する。	
37	マメ	ハリエニシダ	<i>Ulex europaeus</i> L.	Y		要 注 意	○													○	侵入すれば、河川堤防や道路法面で優占群落化のおそれがある。	
38	ニガキ	ニワウルシ	<i>Ailanthus altissima</i> (Mill.) Swingle	Y	○		○				○									○	市街地の路傍、中央分離帯に多数侵入している。河川敷で優占群落を形成し、森林林縁部にも侵入している。ルートサッカー(根から「ひこばえ」が発生する)のため面積拡大しやすい性質をもつため、要注意。	
39	モクセイ	セイヨウイボタ(ヨウシュイボタ)	<i>Ligustrum vulgare</i>	Y	○		○													○	夏緑林下や道路法面で定着している。隣接する植栽地からの逸出もみられ要注意である。	
40	クルミ	シナサワグルミ	<i>Pterocarya stenoptera</i> DC.	Y	○		○													○	河川の流水縁に定着し、列状に分布する。	
41	クマツツラ	ヒメイワダレ	<i>Phyla incisa</i> Small	Y	○		○													○	栄養繁殖が旺盛で、優占群落化が懸念される。今後の影響が危ぶまれる。	

